

令和3年度

渋川市生きる力を育てるための学校・家庭・地域  
三者連携推進協議会について

渋川市教育委員会

1 ねらい

学校・家庭・地域の三者が連携をとりながら、幼児児童生徒の生きる力を育てるためにはどのような取り組みが有効であるか協議し、その方向性を見出す。

(設置要綱 第1条より)

2 目指す姿

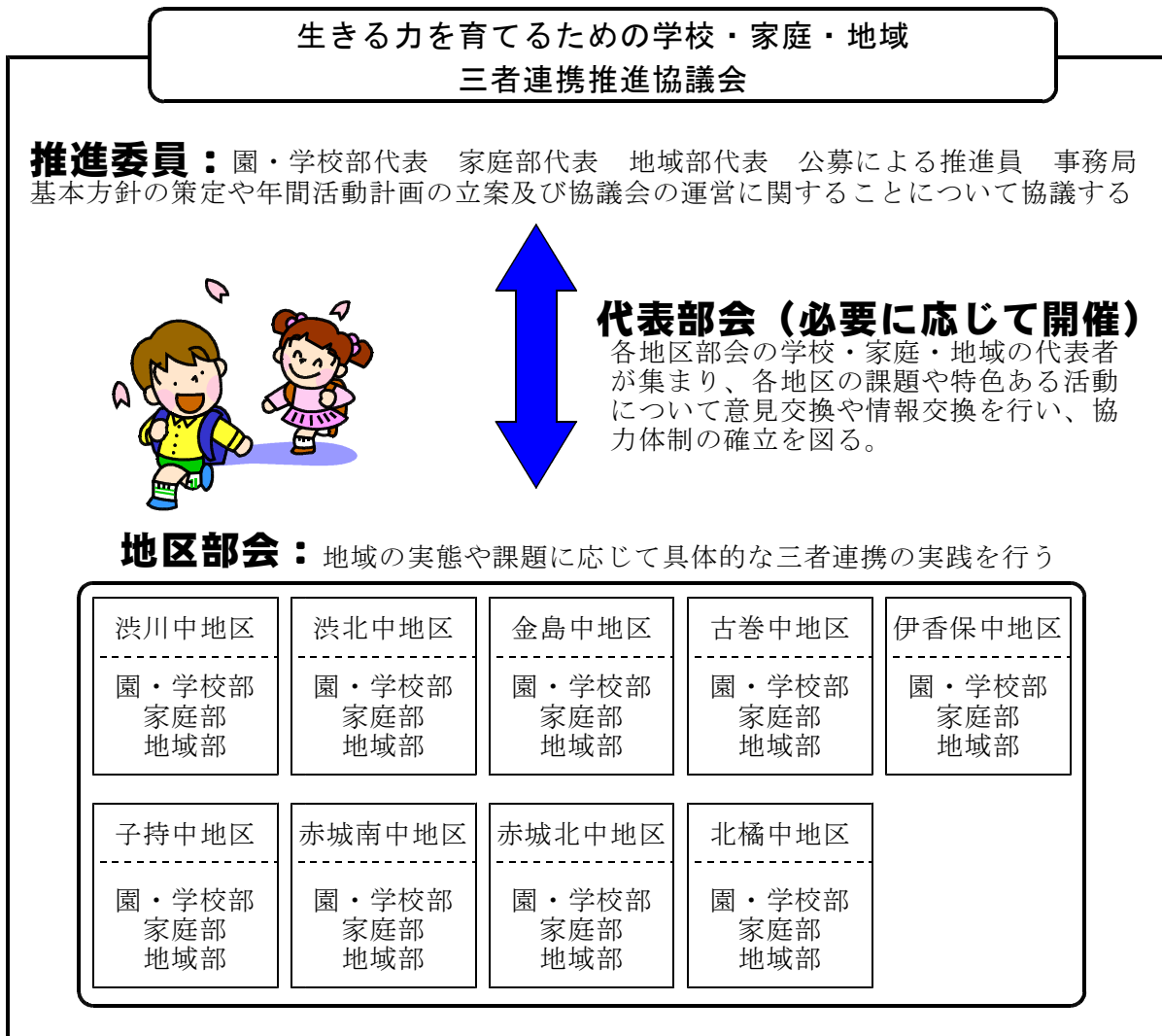
子どもの「主体性」と「地域愛」を育むために、手を取り合しましょう

3 育てたい子どもの姿

- あいさつができる子
- ものごとをよりよく考える子
- 相手の気持ちを大切にする子
- 運動を楽しむ子
- 地域を愛する子



4 組織図



## 令和3年度 三者連携推進事業推進計画

<令和3年度の事業計画について>

### 1. 3つの柱に向けた取組

#### 1 市共通テーマ「子どもの安全安心」の取組

- 子どもが安心して生活できるよう、学校・家庭・地域で連携を図り、「子どもの安全安心」に対する取組の充実を図る。
- 地区部会では、子どもたちの危険を予測する能力を高めたり危険を回避する能力を養ったりするために、子どもたちが安全安心について主体的に考えていくことができる取組を工夫する。

#### 2 「あいさつ」ができるひとづくりを推進するための取組

- あいさつをする「こころ」を育てるための事業の充実を図る。
- 地区部会では、日常の基本であるあいさつをだれとでもできるひとづくり、人間関係づくりをめざし、また、あいさつを通して地域の輪を広げ、お互いを尊重しあえる地域づくりを推進するための取組を工夫する。

#### 3 子どもの「主体性」と「地域愛」を育むための取組

- 中学校地区の特色を生かした、子どもの「主体性」と「地域愛」を育むための事業の充実を図る。また、渋川のよさを知り、ふるさと渋川を誇りに思う「こころ」の育成を図る。
- 地区部会では、「育てたい子どもの姿」の実現に向けて、子どもの「主体性」と「地域愛」が育まれるように、学校・家庭・地域で共通認識のもと連携を図り、取組を工夫する。

### 2. コミュニティ・スクール導入に向けた取組

- コミュニティ・スクールについての説明及び周知（事務局より）
- 各学校の経営方針の説明

<開催日・内容について>

開催日	事業名	内 容
5月25日（火）	推進委員会 （第二庁舎 202）	○年間基本方針の策定 ○年間計画の立案及び運営の協議
6月～	地区部会 （各中学校地区） 渋川中地区 渋川北中地区 金島中地区 古巻中地区 伊香保中地区 子持中地区 赤城南中地区 赤城北中地区 北橋中地区	○各地区部会の三者連携推進事業計画の策定 *組織の確認 *地域で育てたい子どもの姿の確認 *3つの柱に向けた取組について ・「コロナ禍でできること」「コロナ禍だからすべきこと」の視点 *コミュニティ・スクール導入に向けた取組について ・コミュニティ・スクールについての説明及び周知（事務局より） ・各校の経営方針の説明
通 年		○各地区ごとの連携推進事業の実施 ○園・学校だよりによる周知 随時、園・学校より
2月15日（火） 予定	推進委員会 （第二庁舎 202）	○今年度の事業報告及び次年度に向けて

## 「令和2年度三者連携推進事業」のまとめ

渋川市教育委員会（三者連携推進協議会事務局）

令和2年度三者連携事業の成果と課題について（○：成果、●：課題）  
全体として

- 学校が「新しい生活様式」等の確認・共通理解を図るために「学校だより」等による情報発信を頻繁に行った。学校が情報発信することの重要性を再確認することができ、情報提供が充実した。
- コロナ禍において、制限された活動は多かったが、その中でもできることは何か、どのようにしたらできるのかを三者で相談することができた。そのことにより、三者で協力することの大切さに改めて気付くことができた。
- 新型コロナウイルスの感染拡大を乗り切るために、三者がより一層連携をしていく必要がある。

### ① 市共通テーマ「子どもの安全安心」の取組

- 子どもたちが、地域の方々による通学路点検や登下校時の見守り活動、パトロール活動等を知ることにより、地域の多くの方に見守られ、安全に安心して生活できていることに気付き、感謝の気持ちをもつことができた。
- 三者で共通理解を図り、子ども自身が安全安心について主体的に考えることができる取組を工夫して実施できるとよい。

### ② 「あいさつ」ができるひとづくりを推進するための取組

- 交通指導員や旗振り当番の保護者から率先してあいさつを行うことにより、あいさつのできる子どもたちが増えてきた。
- 学校では、校内放送を活用してあいさつの大切さを呼びかけたり、児童会や生徒会の活動の中で気持ちのよいあいさつの仕方を取り上げたりするなど、あいさつ運動のやり方を工夫し実践できた。
- 子どもたちは、登下校時においても私語を自粛したりソーシャルディスタンスを確保したりしなければならない状況であったため、自発的なあいさつを行うことが難しい現状が続いている。
- 子どもたちが地域の方々と積極的なあいさつができるよう、三者の様々な関わりの中で、大人が手本を見せていく必要がある。

### ③ 子どもの「主体性」と「地域愛」を育む取組

- 密を避けるため地域や家庭の方々との交流は制限されたが、学校での活動の様子を学校だより等を通じて今まで以上に発信することができた。
- 地域の方々の仕事に取り組む姿、地域における役割を果たすために頑張る姿を間近で見ることができ、子どもたちは、地域への愛着を深めることができた。
- 地域の中で、地域と学校をつなぐことができる幅広い年代の方々をどのように確保・育成していくのか見通しをもって取り組んでいく必要がある。
- 三者がそれぞれ感染症の状況に対応しながら、地域の行事等への参画方法を考えていく必要がある。